

# 頑張る生きもの

## 1. セスジスズメの幼虫

戦闘機の流線型はスズメガをモデルにしたのでしょうか。セスジスズメはガの一種ですが、その飛翔を見ることはまずありません。夜行性だからです。一般的には朝になって外灯に飛来したものに気づく程度です。



一方、幼虫は非常に目につく存在で、黒色の体側面に赤黄色の7個の円紋が並び、とても不気味です。そのうえ、尾端に長い突起（尾角といい、スズメガに共通）があります。ちょっと手に取る気はしませんが、刺すことはなく、無毒ですから捕まえても大丈夫です。同様の色彩で有毒のものがあれば、身を守るためにスズメガの幼虫が姿を真似たと考えられますが、似た姿の生き物がいません。目立つ目玉模様で鳥を脅しているのではないのでしょうか。



終齢幼虫になると、茶褐色となり背中に黄色の横縞が入りますが、脇腹の目玉模様はそのまます。頭胸部の方が細いため、尾角のある方が頭のように見えます。この怪物がよく見られる草が、打吹山遊歩道や公園近辺のヤブガラシです。

## 2. ヤブガラシの蜜

ブドウの仲間ですが、果実の房がぶら下がらないのでブドウらしくありません。日当りの良い場所を好み、林縁や植え込みなどでよく繁ります。多年生なので、地下の茎からの芽出しは4月下旬から始まり、取ってもとつてもまた伸びてきます。茎から巻きひげを伸ばして他の草木に取り付きながら上へ伸びるつる植物で、草木の上面を覆って光をさえぎってしまうため、藪も枯らすという



意味から「ヤブガラシ」と呼ばれています。

6月、花は房状に広がって咲きます。茎の先端が花になって側芽が伸び、その先端が花になる、というように次々と枝分かれしながら花が作られます。同心円状に広がった花穂は最初の開花と後の開花がずれるため、果実と花が同時にみられます。



小さな花卉と雄しべはすぐ落ちるので、雌しべは花托（花盤という）の上に突き出た形をしています。時間とともにオレンジ色からピンクに変わる花盤は蜜が多いので、昆虫がよく集まります。受粉に役立っているのでしょう。

